

2026年3月期中間期
経営戦略説明会

共英製鋼株式会社

(東証プライム：5440)

2025.11.12

本日の内容

1

決算説明

2

中期経営計画 進捗状況

3

参考資料

1

決算説明

2

中期経営計画 進捗状況

3

参考資料

前年同期対比減収増益

期間：2025年4月1日～9月30日

	単位	2025年3月期		2026年3月期			前回予想 上期	増減	
		上期	下期	1Q	2Q	上期		対前期上期	対前回予想
売上高	億円	1,610	1,618	742	805	1,547	1,540	▲ 64 ▲3.9%	+7 +0.4%
営業利益		59	94	43	49	92	80	+33 +55.7%	+12 +15.1%
経常利益		61	96	41	44	85	75	+23 +38.3%	+10 +13.1%
当期純利益		51	57	27	27	54	48	+4 +7.3%	+6 +13.2%

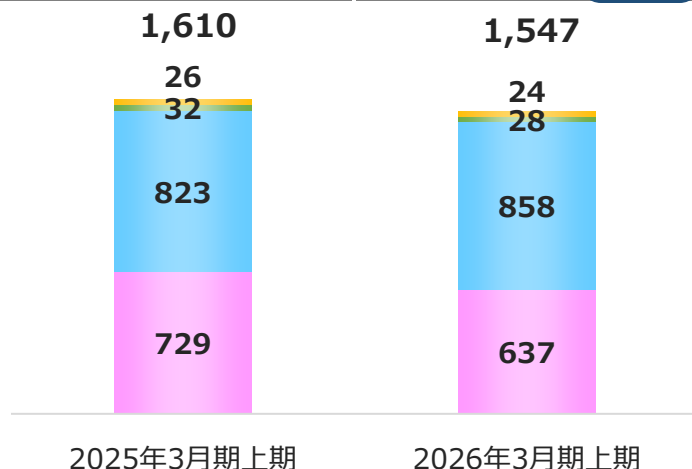
※前回予想：7月31日発表

セグメント別業績概要（2026年3月期 中間期）

- 国内：建設現場の人手不足や猛暑による工期の遅延・長期化により出荷量は減少、前期対比減収減益
- 海外：ベトナム拠点の需要が年初より急回復、北米も需要環境良好、米国拠点の赤字幅縮小で増収増益
- 環境リサイクル：競争環境激化、処理量減により減収減益

売上高（億円）

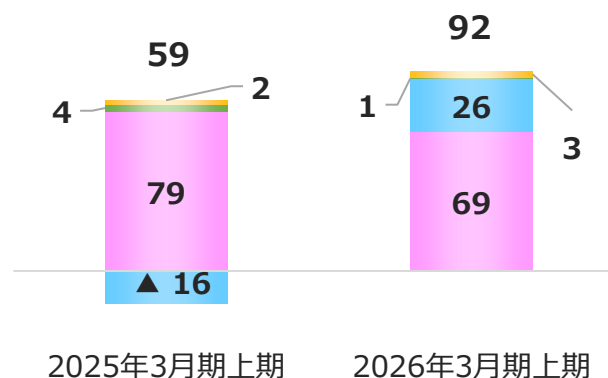
	2025年3月期			2026年3月期			前回予想
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	上期
国内鉄鋼事業	382	347	729	327	311	637	642
海外鉄鋼事業	371	452	823	388	469	858	843
環境リサイクル事業	17	15	32	13	14	28	32
その他事業	13	13	26	13	11	24	23
合計	783	827	1,610	742	805	1,547	1,540



営業利益（億円）

	2025年3月期			2026年3月期			前回予想
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	上期
国内鉄鋼事業	47	32	79	40	29	69	60
海外鉄鋼事業	▲ 18	2	▲ 16	6	20	26	24
環境リサイクル事業	3	0	4	0	0	1	2
その他事業	1	1	2	2	1	3	2
合計	31	28	59	43	49	92	80

※ 営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

業績予想（2026年3月期 通期）

- 売上高、利益ともに据え置き
- 売上高、利益とも前期実績とおおむね同水準（ただし営業利益は+11%）
- 配当予想も変更なし

前回予想

		2026年3月期		
		上期	下期	通期
	単位			
売上高		1,540	1,690	3,230
営業利益	億円	80	90	170
経常利益		75	85	160
当期純利益		48	57	105

今回予想

2026年3月期			参考：前期実績		増減率	
上期	下期	通期	下期	通期	対前期実績	
					下期	通期
1,547	1,683	3,230	1,618	3,228	+4.0%	+0.0%
92	78	170	94	153	▲17.3%	+10.9%
85	75	160	96	157	▲21.8%	+1.6%
54	51	105	57	108	▲11.5%	▲2.7%

		中間	期末	年間
	単位			
1株当たり配当金	円	30	60	90
配当性向	%	-	-	37.3

中間	期末	年間	増減
30	60	90	-
-	-	37.3	+0.0

※為替前提 通期 150円/\$

※為替前提 下期 150円/\$

セグメント別業績予想（2026年3月期 通期）

- 前年同期比：国内鉄鋼事業・環境リサイクル事業は**減益**、海外鉄鋼事業は**増益**の見通し
- 前回予想比：国内鉄鋼事業・環境リサイクル事業は**減益**、海外鉄鋼事業は**増益**の見通し

売上高

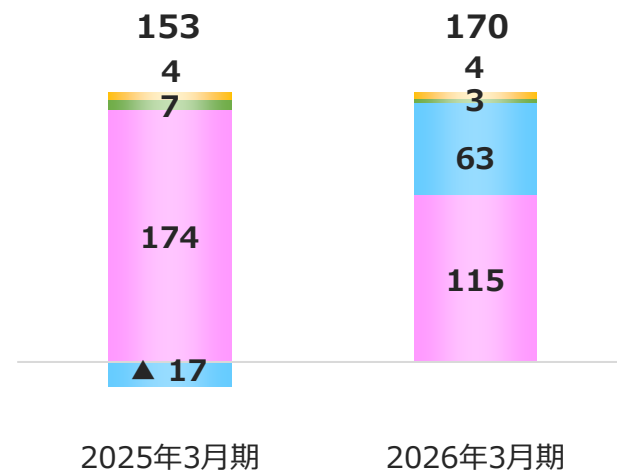
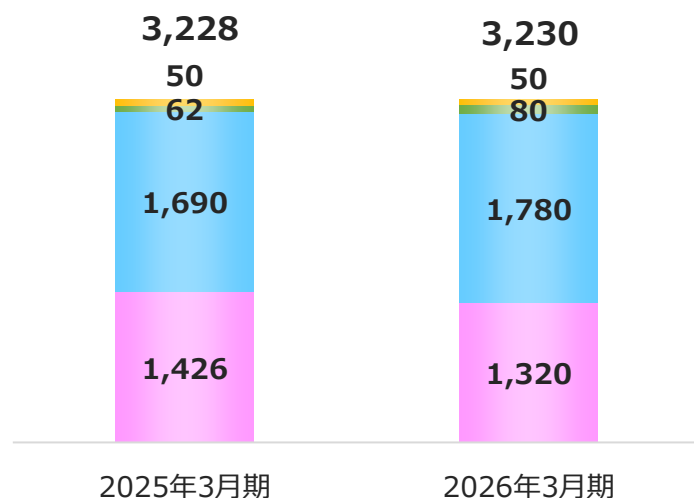
(億円)

営業利益

(億円)

	2025年3月期			2026年3月期			前回予想		2025年3月期			2026年3月期			前回予想	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	下期	通期
	国内鉄鋼事業	729	697	1,426	637	683	1,320	678	1,320	79	95	174	69	46	115	60
海外鉄鋼事業	823	867	1,690	858	922	1,780	947	1,790	▲ 16	▲ 1	▲ 17	26	37	63	36	60
環境リサイクル事業	32	31	62	28	52	80	40	72	4	3	7	1	2	3	3	5
その他事業	26	24	50	24	26	50	25	48	2	2	4	3	1	4	2	4
合計	1,610	1,618	3,228	1,547	1,683	3,230	1,690	3,230	59	94	153	92	78	170	90	170

※営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

1

決算説明

2

中期経営計画 進捗状況

3

参考資料

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期
	実績	実績	予想	最終年度目標
売上高	3,210億円	3,228億円	3,230億円	3,800億円
経常利益	210億円	153億円	160億円	250億円
当期純利益	138億円	108億円	105億円	175億円
出荷量	307万トﾝ	313万トﾝ	329万トﾝ	370万トﾝ
(国内)	158万トﾝ	145万トﾝ	140万トﾝ	160万トﾝ
(海外)	149万トﾝ	168万トﾝ	189万トﾝ	210万トﾝ
ROE	7.4%	5.4%	5.1%	8%以上
自己資本比率	54.9%	57.5%	55.4%	50%以上
ネットDEレシオ	0.18倍	0.10倍	0.12倍	0.5倍以下
配当性向	28.3%	36.2%	37.3%	30~35%
設備投資・事業投資	115億円	171億円	179億円	-
			1,100億円／3年	

中期経営計画は中間地点

国内苦戦も海外でカバー、「世界3極体制」の確立に向け着実に進捗

国内鉄鋼事業

- 建設・物流現場の人手不足や猛暑による工期の遅延・長期化、資材価格の上昇を受けた計画の見直し等の影響により需要は低調に推移、出荷量減少で苦戦、前年度対比減益の見通し

ベトナム事業

- 政府主導のインフラ投資がけん引する形で需要は回復、競争環境は依然厳しいものの、今後も旺盛な鋼材需要が予想される
- 出荷量増加、スプレッド拡大により黒字化、前年度対比大幅増益の見通し
- 北部拠点の新圧延工場はフル生産に向け計画通りに立ち上げ中

北米事業

- アメリカ拠点は事業環境良好ながら、上期は設備老朽化に起因するトラブルもあり、操業安定化に時間を要し赤字継続も、下期には改善を見込む
- 将来（次期中計）を見据えた製鋼工場新設・圧延工場大幅改造の大規模投資案件に着手
- カナダ拠点も堅調な需要環境の下、細物鉄筋の効果もあり前期を上回る業績で推移

成長を支える基盤強化

- 「エシカルスチール」を軸としたブランディング活動を本格化、人的資本投資の取り組みも進捗中

事業の成長に向けた取り組み（成長戦略）

国内鉄鋼事業

国内4事業所の連携強化と
関東圏におけるプレゼンス向上
(川上・川下戦略の実現によ
る事業基盤の強化)

海外鉄鋼事業

世界3極体制のウエイトシフト
による収益力強化
(北米事業強化と
ベトナム事業再構築)

環境リサイクル事業

電炉溶融処理の先駆者
としてのプレゼンス向上

成長を支える基盤強化

無形資産投資

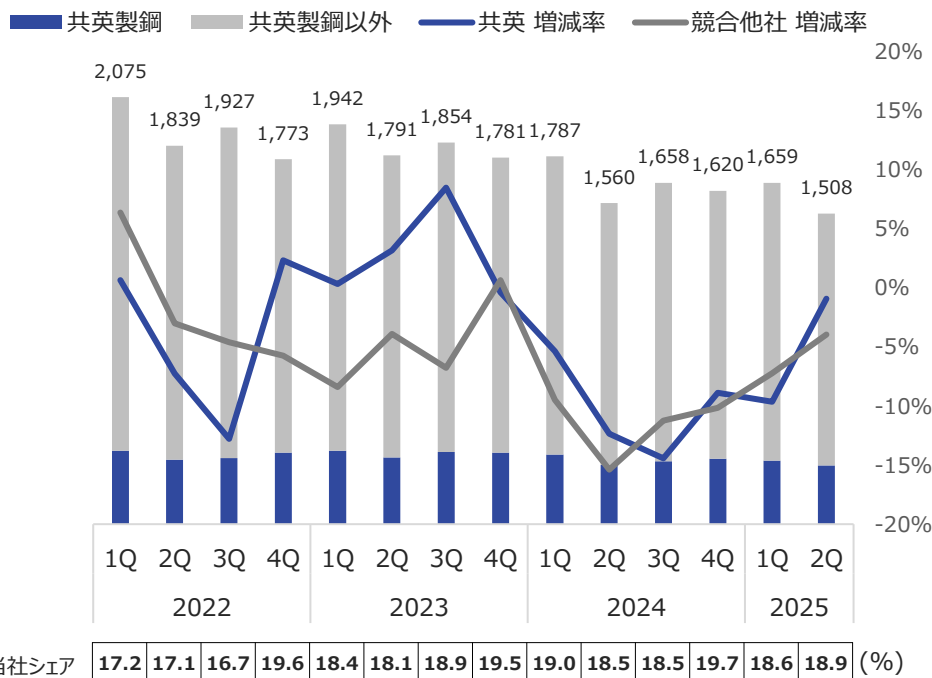
「100年企業」を
目指した
ESG経営

経営基盤の強化

■ 2年目の状況

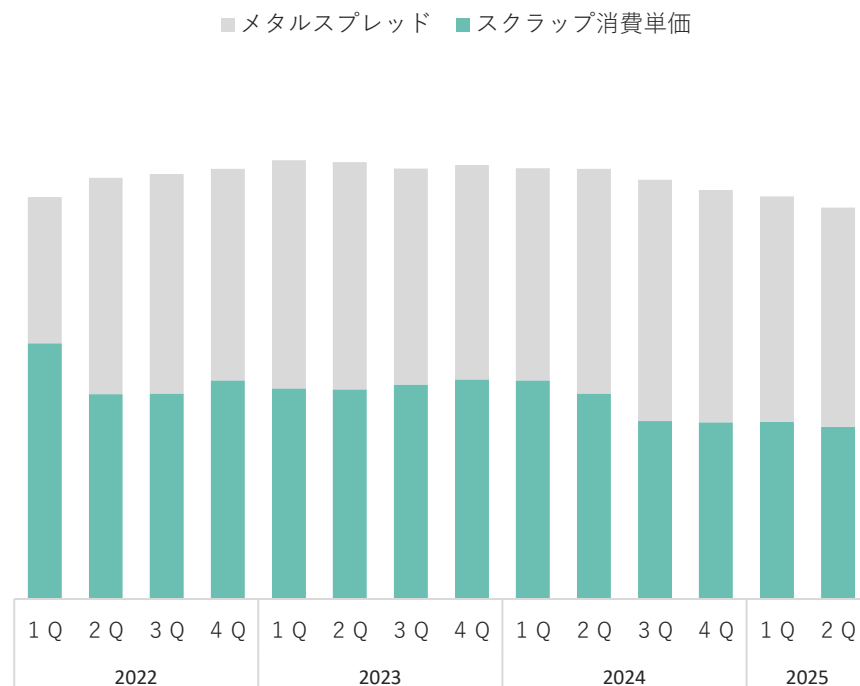
- 前期に続き、建設・物流現場の2024年問題（人手不足や働き方改革）、猛暑による工期の遅延・長期化、計画見直し等により出荷量は減少（前年同期対比▲4.8%
全国小形棒鋼生産量：前年同期対比▲5.7%）
- 9月度、11月度の値上げを打ち出し、市況の改善に注力

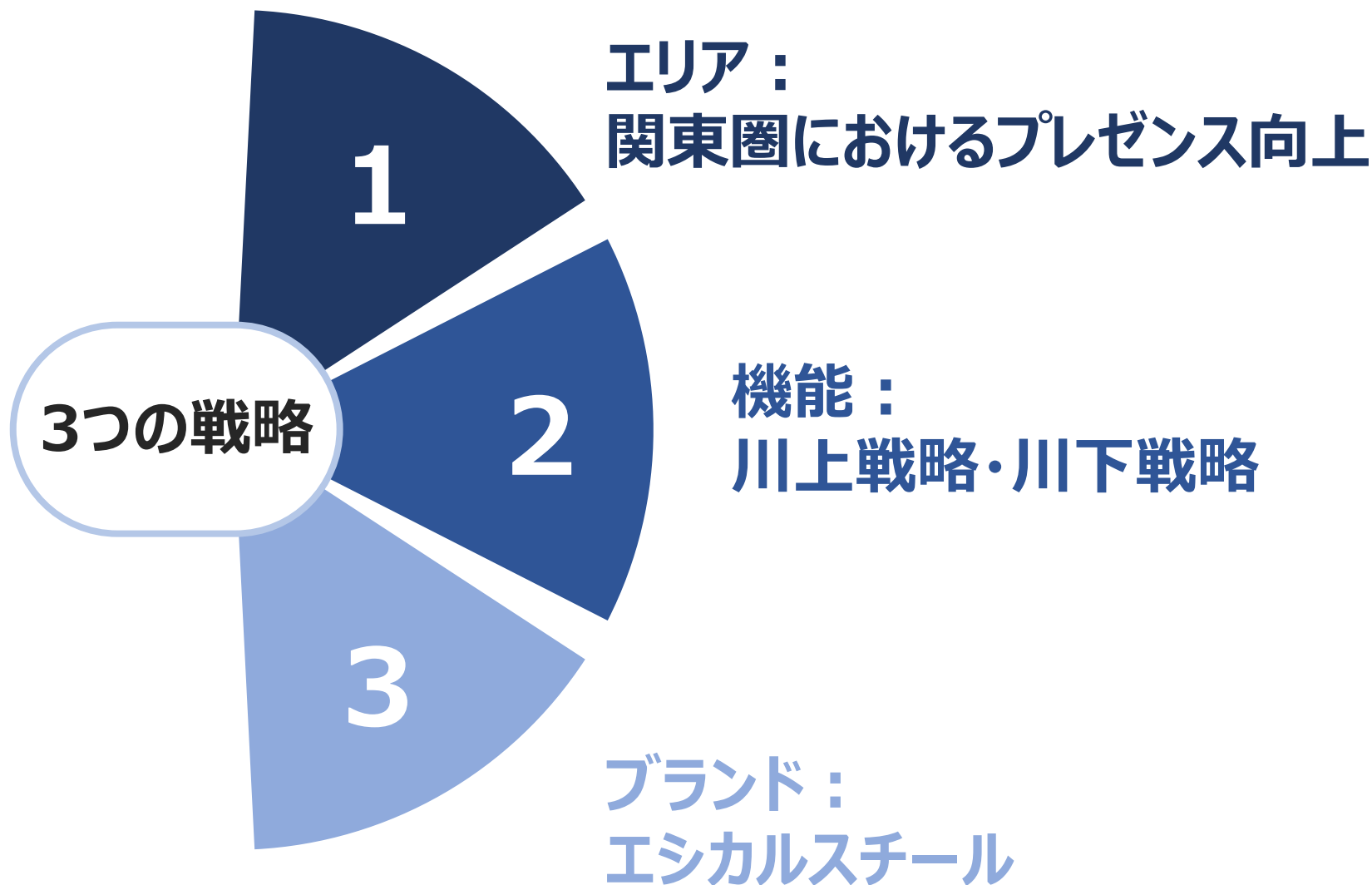
全国小棒生産量と当社生産量・前年同期比増減率



※増減率は前年同期で比較

スクラップ消費単価・メタルスプレッドの推移





■ エリア：関東戦略

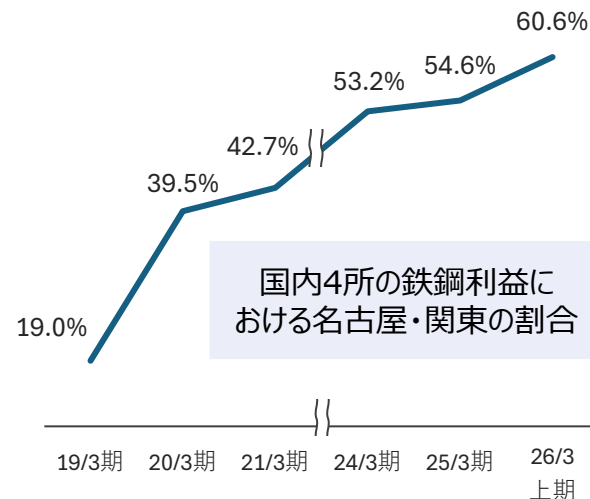
- 国内最大需要地である関東圏でのプレゼンス向上に向けた取り組みを推進
- 高強度鉄筋やネジ節鉄筋の拡販



共英産業 厚木工場



共英産業 成田工場



■ 機能：川上戦略・川下戦略

- 川上戦略：スクラップ安定調達のため、東洋商事（愛知県東海市）を買収
- 川下戦略：グループ会社の共英産業（加工・施工）、共英加工販売（フープ筋）との連携を強化



東洋商事

■ エシカルスチールとは

- 医療廃棄物・産業廃棄物などを処理しながら製造し、生産から出荷までトレーサビリティを確保した製品
(一部の鋼種やサイズを除くすべての品種が対象)

■ エシカルスチールの意義と価値

- 鉄鋼事業と環境リサイクル事業の併営という
当事業の独自性を体現
- 「社会から出る“負の資産”を、社会を支える
“プラスの力”に変えていく」という思いを込めた製品



6月よりイメージキャラクターとして
ウルトラマンを起用

©円谷プロ

鉄鋼事業 × 環境リサイクル事業 = エシカルスチール

■ エシカルスチール認知度向上の取り組み

- エシカルスチールの理念の浸透を図るため、取引先、地方自治体や地域の病院に対し、説明会を実施
- 対外広報の拡充
 - ✓ 東京、大阪、および事業所近辺の駅への広告掲出
 - ✓ 建築業界誌など、施主層向け媒体への露出
- ノベルティを活用した販促活動



流通様向けエシカルスチール説明会

■ 現在の受注状況

- グレーチングメーカー(株)ダイクレ様の福祉施設新築工事および安芸津工場建設工事において基礎建材として採用
⇒ **施主指定によるエシカルスチール受注第1号の案件**
- 上記以外にも、病院、一般廃棄物処理施設、メーカーの工場など受注が増加

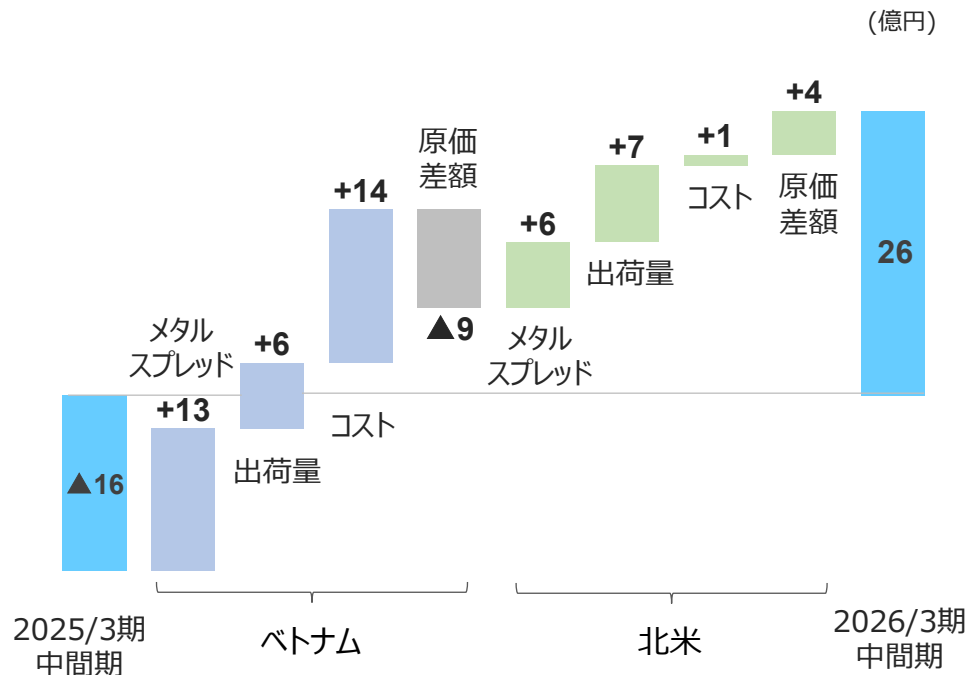


新幹線東京駅に掲出中の広告

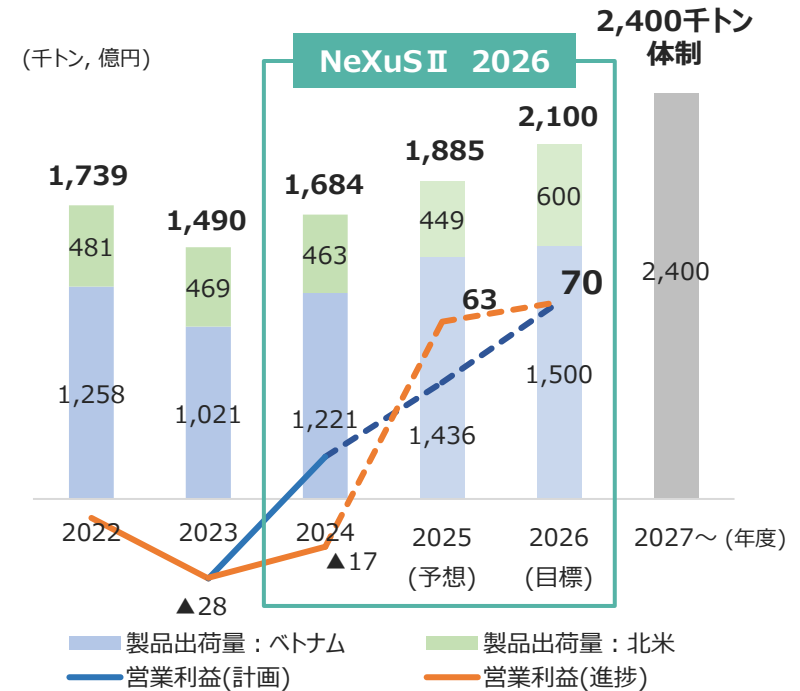
■ 2年目の状況

- ベトナム、北米とも前年同期対比でメタルスプレッド拡大、出荷量増加、コスト低減により、黒字化を達成、大幅増益
- 中計最終年度目標である海外セグメント利益70億円が射程圏内に入る

海外セグメント利益の変動要因



近年の状況と中計目標



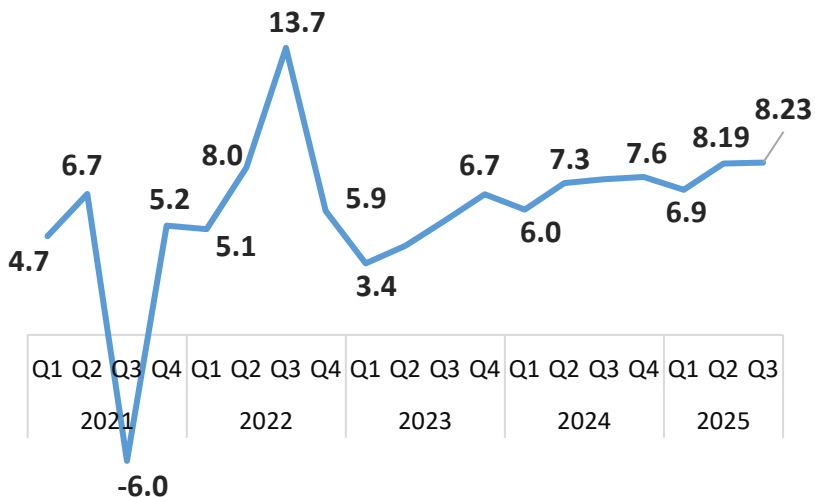
■ 足元の事業環境

- 2024年8月に就任したトー・ラム書記長の下、経済成長を重視した政策を実行
- GDP成長率目標（2025年に8%以上、2026年から2030年には10%以上）の実現に向け、民間部門の活性化を重視 ⇒ 2026年の共産党大会後も現方針の継続が予想される

■ 今後の見通し

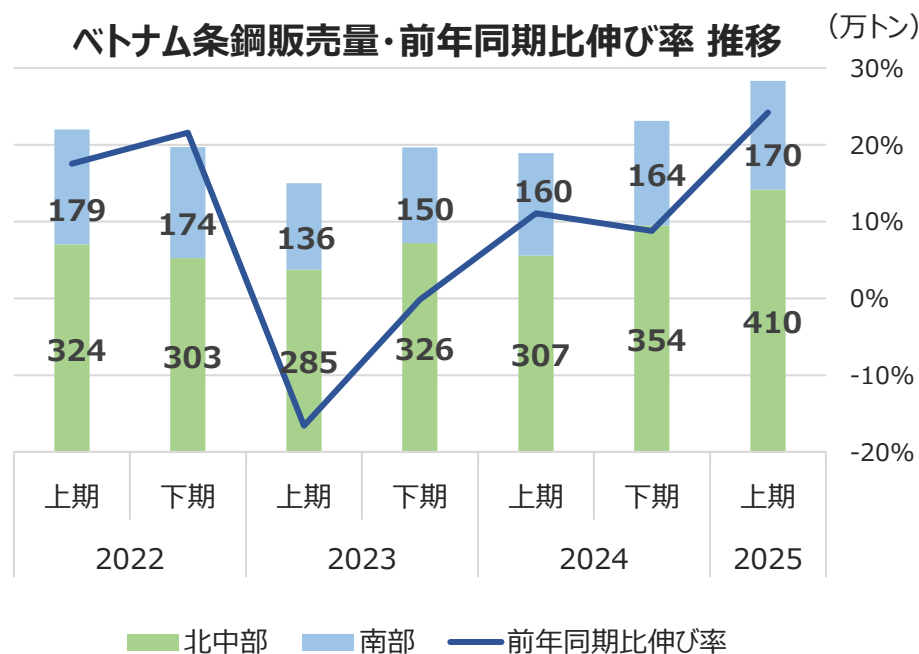
- 個人向けハウジング需要の戻りは鈍いものの、官民ともプロジェクト案件需要が旺盛
特に北部は首都圏（ハノイ）を中心に今後もインフラ投資を中心とした需要の伸びが期待できる

ベトナムのGDP成長率(%)



出典：Trading Economics

ベトナム条鋼販売量・前年同期比伸び率 推移 (万トン)

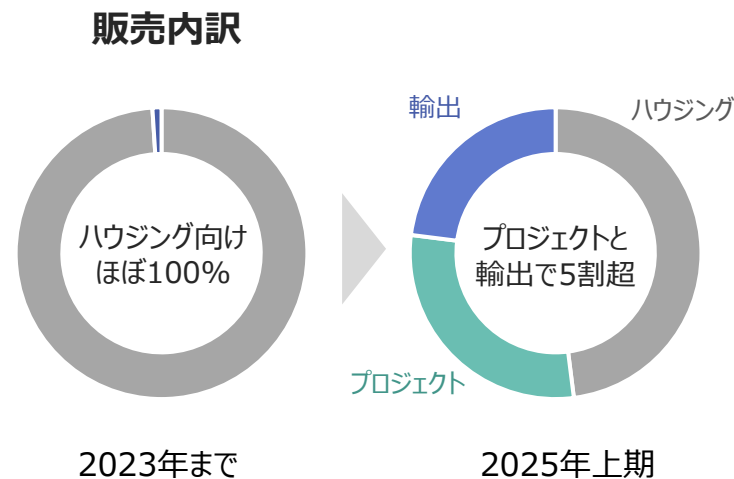
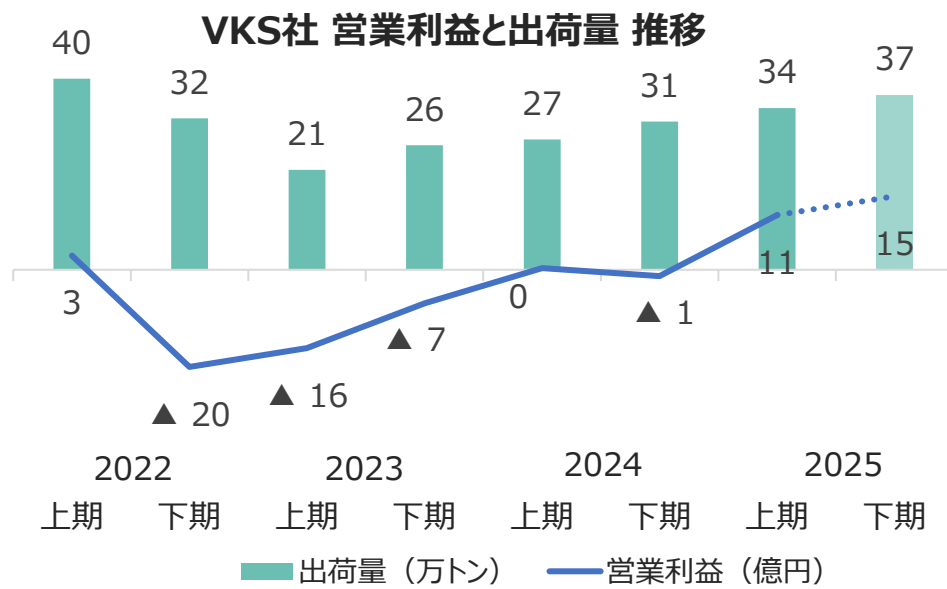


■ 北中部 ■ 南部 — 前年同期比伸び率

出典：ベトナム鉄鋼協会

■ VKS社

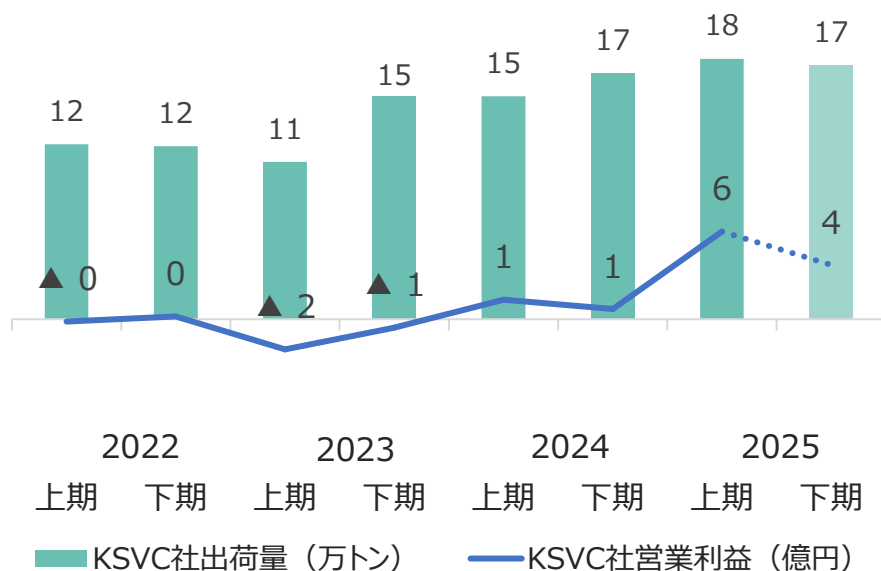
- 堅調なプロジェクト向け・輸出の販売割合を増やし、前期対比で**出荷量21%増加**の見込み
- 生産量増により固定費が低減、利益水準が高まり、**通期で営業利益27億円**となる見込み
- 輸出先の多様化に向け、カンボジア・豪州・ニュージーランドに加え、シンガポールで規格、認証を取得中
- 今後も需要に応じた販売施策を講じ、高い利益水準を維持



■ KSVCS社

- 北部の旺盛な需要に対応した販売拡大を実施、OEMも活用し、前期対比で**出荷量10%増加**の見込み
- 今後も低在庫操業と安価な半製品の調達を継続し、**通期で過去最高益**を達成する見込み

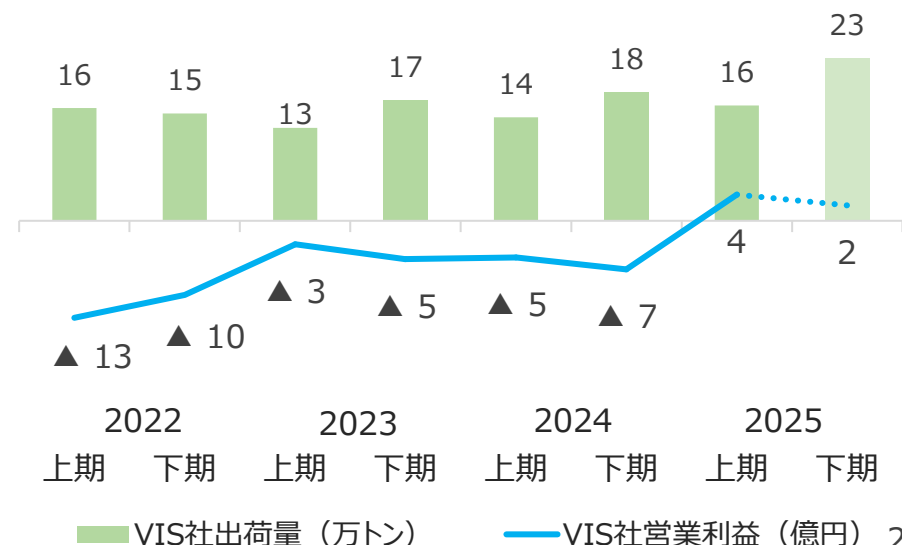
KSVCS社 営業利益と出荷量 推移



■ VIS社

- 北部の旺盛な需要を捉えるとともに（前期対比**出荷量20%増**の見込み）、値上げによりスプレッド拡大とコスト削減策が奏功し、**5期ぶりに通期黒字化**の見込み
- 競合対比コスト面で不利な状況を打開するため、新庄延工場の早期フル生産を目指す（スライド21）

VIS社 営業利益と出荷量 推移



■ 立ち上げ状況

- ダニエリ製の最新設備でベトナム最速の高速圧延（44m/秒）を達成
- 日本人技術者のサポートのもと、調整を重ね稼働率向上



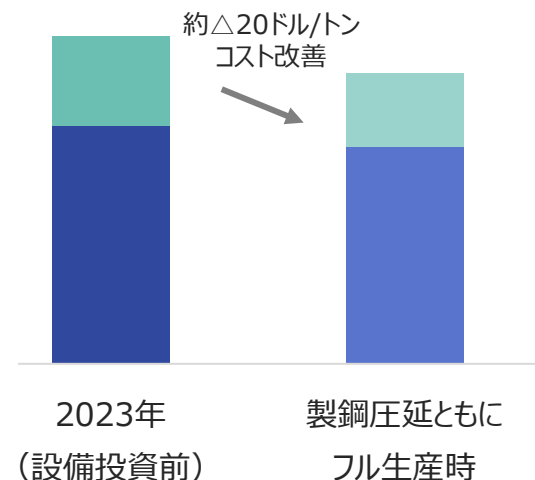
新圧延ライン

■ 今後の見通し

- 今年度の新圧延工場（ハイフォン）の出荷量は10万トン、既圧延工場（フンイェン）と合わせた出荷量は39万トンの見通し
- 来年度以降のフル生産を目指し、操業体制（人員）を拡充
- 拡大するベトナム北部の需要を捕捉するため、KSVC社とVIS社の販売体制の連携を強化
- フル生産到達後、製造コストは20ドル/トン改善

製造コスト改善

■ 製鋼 ■ 圧延



事業環境

- テキサス州は**世界8位レベル**の経済規模を誇る
- 高速道路などのインフラ整備や、データセンターなどの建設が盛んにおこなわれており、需要は堅調
- 2025年6月4日より、通商拡大法232条に基づく鉄鋼・アルミニウムへの**50%**の関税が実施され、外国産製品の国内流入量減
- 安価な輸入品が締め出され、市況が上昇、ビントン・スチール社のスプレッドも拡大（右下グラフ）



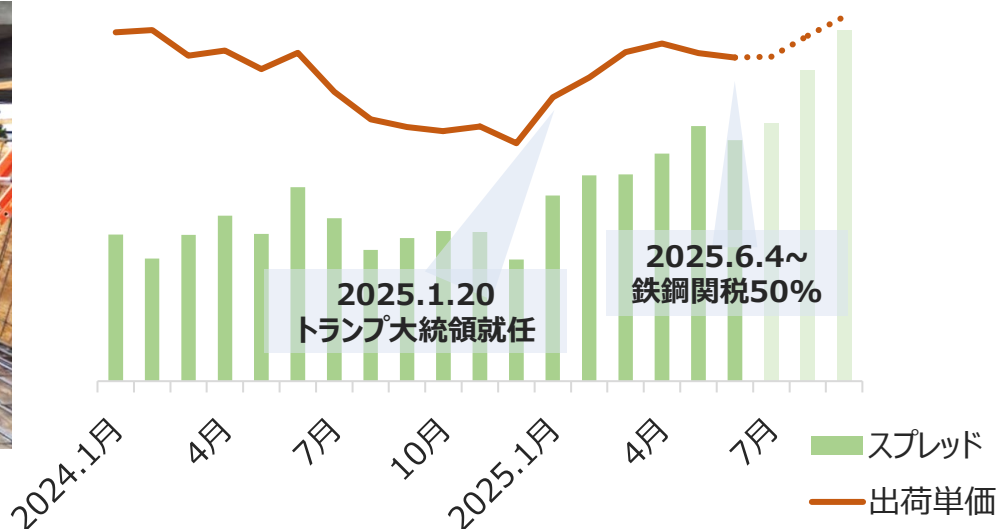
米国の道路には鉄筋が使用される

名目GDP（2024年）

順位	国名	単位： 兆\$	順位	国名	単位： 兆\$
1	米国	29.18	7	フランス	3.16
2	中国	18.74	8	テキサス州	2.77
3	ドイツ	4.66	9	イタリア	2.37
4	日本	4.03	10	カナダ	2.24
5	インド	3.91	11	ブラジル	2.18
6	イギリス	3.64			

出典：World Bank Data, Texas Economic Development & Tourism Office

ビントン・スチール社の出荷単価・ メタルスプレッド推移



※2025年7月以降は見込み

■ ビントン・スチール社

今後の見通し・対策

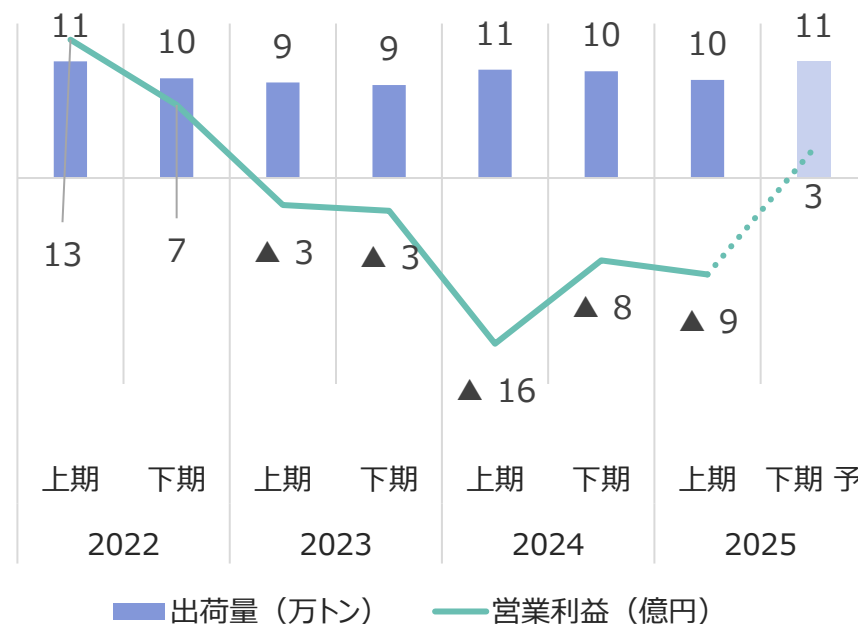
- 日本人技術者の派遣により現地スタッフの操業技術力向上に取り組み、安定稼働でのコスト低減
- 関税のプラス影響もあり、スプレッドは拡大傾向
- 下期は黒字化の見通し

設備投資計画の進捗

- 8月に鋤入れ式を実施（右写真）、現在整地などの工事が進行中
- 設備投資の資金の一部を米国テキサス州政府のIRB（産業歳入債）※1 免税起債枠を用いて調達

※1 IRB
 地方自治体が民間企業の設備投資を支援するために発行する免税債券であり、税制上債券購入者は受取利息が非課税となることから、利率が低く抑えられる。これによりIRB 利用企業は低利での資金調達が可能となる。

Vinton社 営業利益と出荷量 推移



鋤入れ式の様子

■ アルタ・スチール社

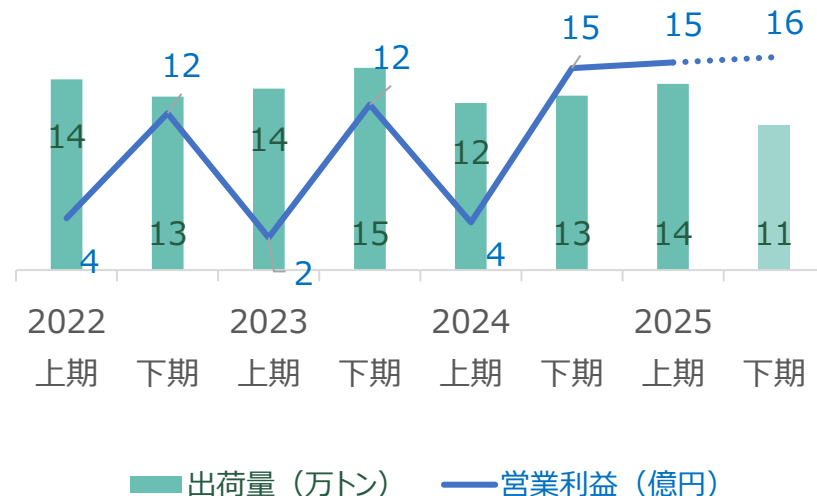
事業環境

- アルバータ州は人口増加地域であり、インフラ等の需要により、今後も堅調の鉄筋需要が見込まれる
- **米国関税**に対し報復関税を実施、米国からの鉄筋輸入が抑えられ、**プラス影響**
- 鉱山向け製品は、安価輸入品および競争激化により、出荷量は減少傾向

今後の見通し・対策

- 堅調な鉄筋需要環境の下、エキストラ価格付きの細物鉄筋をテコに出荷量増、スプレッド拡大で高水準の利益推移を見込む
- 出荷ヤード拡張工事完了、来年度の鉄筋出荷量増加も期待
- 開発中の新製品を試圧、商業生産に向けて準備中

Alta社 営業利益と出荷量 推移



出荷ヤード

■ 2年目の状況

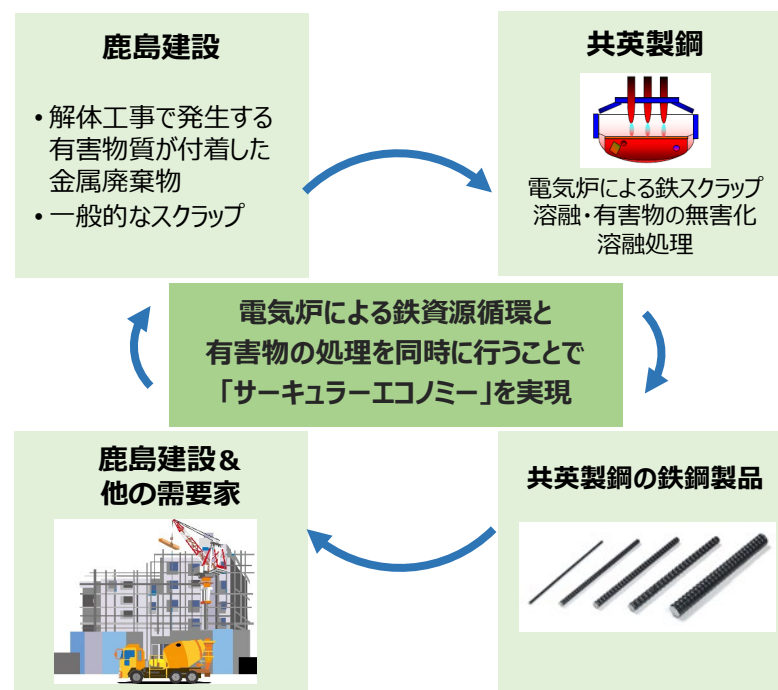
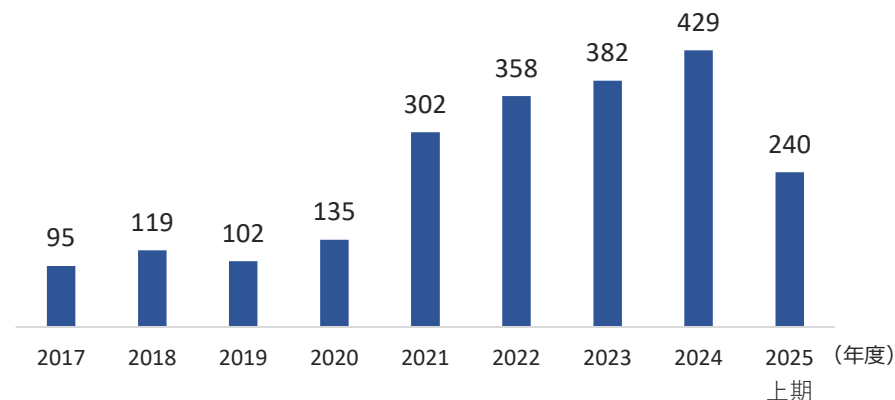
- 上期は医療廃棄物処理における競合との価格競争が厳しく処理量が減少
- 処理量減少によるコストの増加により、業績不調が継続

■ 今後の見通し・対策

- 「エシカルスチール」のブランディング活動を軸に、鋼材販売（営業）との連携による営業力強化
- アスベスト・フロン類など難処理廃棄物の処理強化
- 鹿島建設との協業による、有害物質が付着した金属廃棄物の受け入れ強化
- 光和精鉱との協業（廃液・PCB）強化

フロン等破壊量の推移（当社）

単位：トン



無形資産投資

1

- 「エシカルスチール」を起点にしたアウター/インナーブランディングを展開
- 人材交流プログラム「おむすび」の開始
- 若手中心に海外トレーニー制度を実施
→ グローバル人材の育成を強化



「おむすび」での研修の様子

「100年企業」を目指したESG経営

2

- 燃料転換の推進（山口・関東）
- オリーブ植樹活動の継続
- 寄付活動の実施（エシカルスチール使用の廃棄物保管庫など）

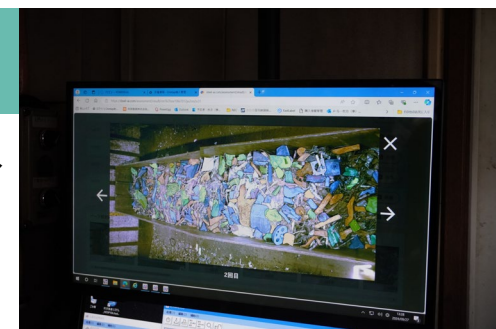


山陽小野田市民病院に寄贈した廃棄物保管庫

経営基盤の強化

3

- DXの強化：国内拠点に加え海外拠点でスクラップAI検収を導入
- 財務格付 A格 維持
- 自己資本比率 57.6% ⇒ 60.0%



AIによるスクラップ検収中の画面（枚方）

資本コストと株価を意識した経営の実現

- 成長戦略の実現と期待値の向上によるROEとPERの上昇によりPBRを改善

現状

PBR 0.5倍
(25年10月31日時点)

ROE 5.4%
(25年3月期)

当社のPBRが低い理由

海外鉄鋼事業
業績の不透明感
など

改善策

PBRの改善
(株価純資産倍率)

=

ROEの改善
(自己資本利益率)
⇒ 8%以上

×

PERの向上
(株価収益率)

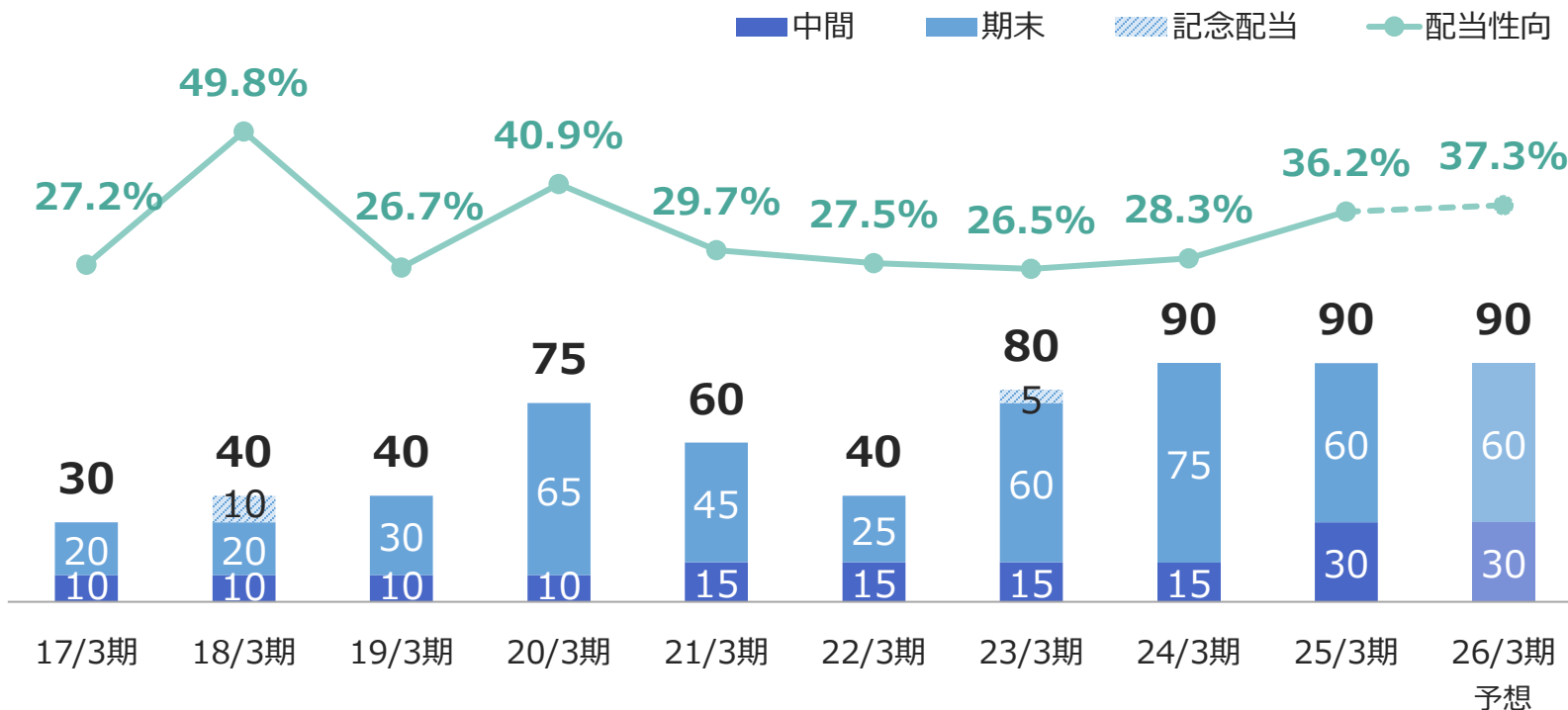
成長戦略の実現

- 中期経営計画の着実な実行
⇒海外鉄鋼事業の立て直し(米国)
と収益力強化(ベトナム・カナダ)

期待値の向上

- 人的資本投資の充実
- ブランド戦略
- 投資家との積極的な対話

- ・ 2026年3月期の配当予想は1株当たり90円（中間30円、期末60円）



配当方針

- ・ 企業価値向上に向けた内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続
- ・ 配当性向（連結）： 30～35%
- ・ 1株当たり年間配当の下限は30円

「NeXuS II 2026」の最終年度に向けて

**厳しい環境の中、世界3極体制の強みをさらに伸ばし、
目標の達成を目指す**

各セグメントの施策を着実に実行し、企業価値の向上を図る

- ・ 国内：エシカルスチールを軸としたブランド戦略により、価格競争に陥らない構造改革
- ・ 海外：伸長する需要をさらに取り込む生産・販売

NeXuS

▶▶▶ Next Success

次代の成功を目指して

これまでの「鉄づくりを通じて社会に貢献する」企業から、
これからの「サーキュラー・エコノミー社会」の中で
資源循環型事業を通じ、社会の発展と地球環境との調和に貢献する
“エッセンシャル・カンパニー”を目指します

免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、当社に関する将来予測や業績予想が記述されていますが、これらは潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。業績結果が経営環境の変化などによって、見通しと異なったものになる可能性があることをご承知おきください。
- これらの情報を利用することで生じたいかなる損失や損害に対しても、当社は一切責任を負うものではありません。

1

決算説明

2

中期経営計画 進捗状況

3

参考資料

財務KPI

経常利益

250億円

出荷量

400万トン体制
国内160万トン・海外240万トン

ROE

8%以上

自己資本比率

50%以上

ネットDELシオ

0.5倍以下

配当性向

30～35%

非財務KPI

CO₂排出量

△50%

(2013年度対比2030年目標)

女性総合職比率

15%以上

女性管理職比率

3.0%以上

労働災害

0件/年

教育研修費/人

15万円
(2022年度の1.5倍)

社会貢献活動支出額

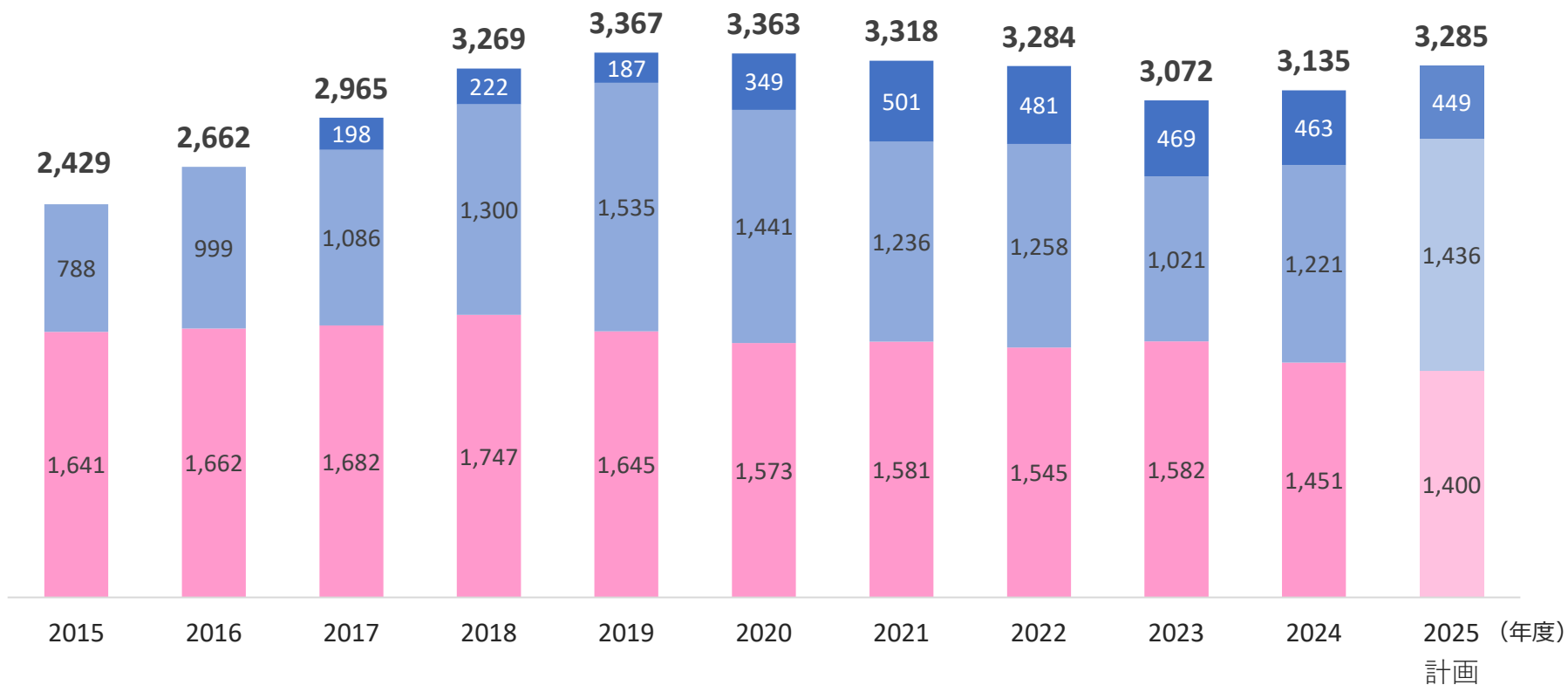
連結当期純利益

0.5%程度

製品出荷量推移：国内・海外

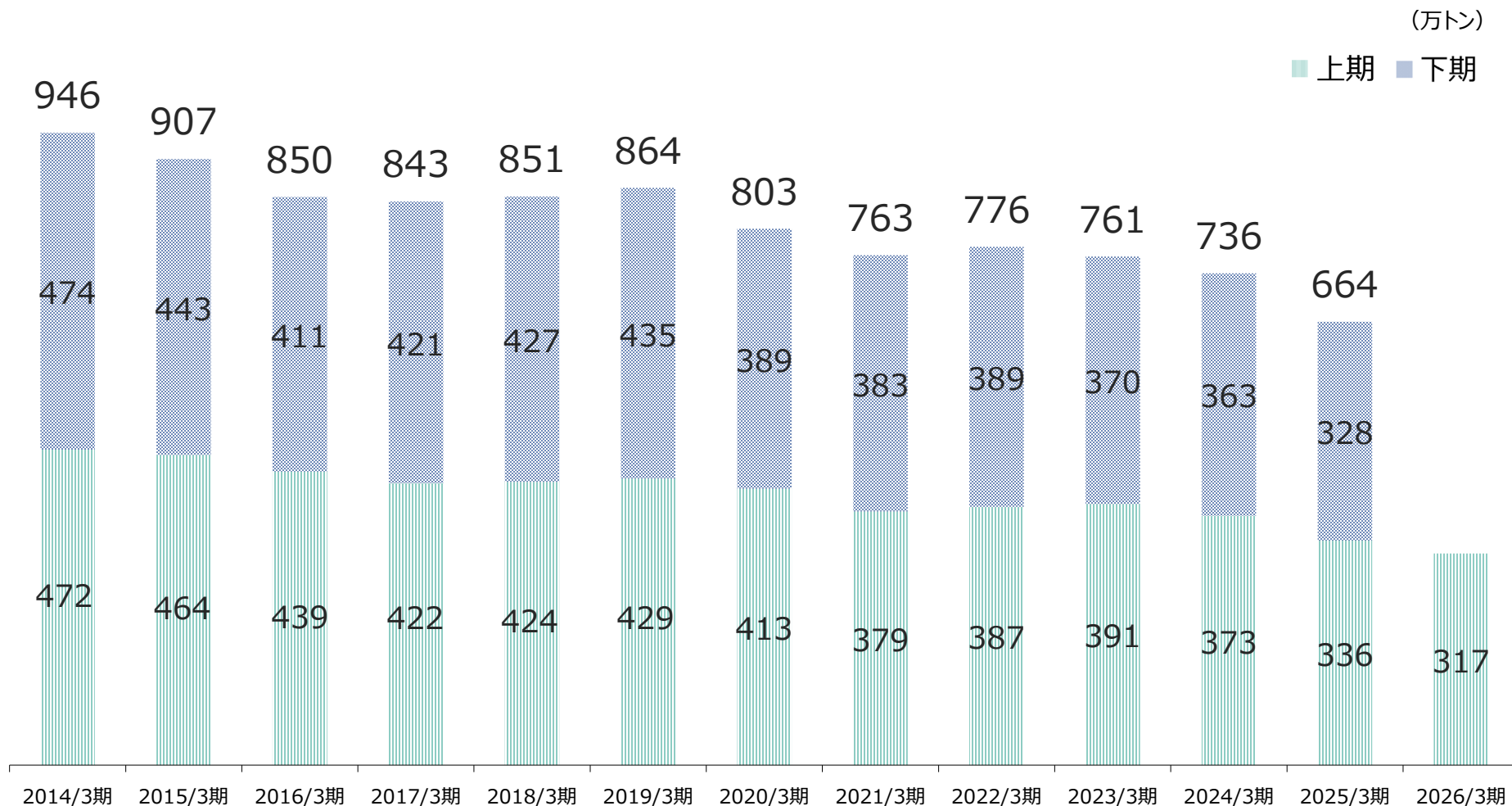
- 国内
- ベトナム
- 北米

(千トン)



参考：全国小形棒鋼生産量推移

■ 2025年度上期の全国小形棒鋼生産量は317万トン、前年同期対比▲5.7%



(出典) 日本鉄鋼連盟資料

通期の前提数値

出荷量は前回予想から据え置きの**140万トン**

10月にスクラップ価格の値上げがあったため、下期にかけて上昇する見込み

	2025年3月期			2026年3月期			前回予想		増減			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	下期	通期	対前年同期 (下期)	対前年同期 (通期)	対前回予想 (下期)	対前回予想 (通期)
製品出荷量 (千トン)	725	726	1,451	690	710	1,400	710	1,400	▲ 16 (▲2.2%)	▲ 51 (▲3.5%)	▲ 0 (▲0.0%)	+0 (+0.0%)
メタルスプレッド (千円/トン)	53.1	57.7	55.4	54.1	50.0	52.0	53.0	53.4	▲ 7.7 (▲13.3%)	▲ 3.3 (▲6.0%)	▲ 3.0 (▲5.6%)	▲ 1.4 (▲2.7%)

※1 メタルスプレッド = 製品出荷単価 - スクラップ消費単価

※2 比較欄の上段は増減数量、カッコ内数値は増減比率

海外鉄鋼事業：通期

- ベトナム南部拠点：上期に引き続き、政府主導のインフラ投資を中心に需要は好調
出荷量増とコスト削減努力の継続により前回予想比で増益の見通し
- ベトナム北部拠点：競合環境は依然として厳しいものの、需要増に対応した販売拡大や
VIS社新圧延工場での出荷量増によりコスト削減を推進し
前回予想比で増益の見通し

ベトナム拠点（南部・北部）

単位	2025年3月期			2026年3月期			前回予想		前期対比		前回予想対比	
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	下期	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	505.3	550.1	1,055.4	543.7	611.5	1,155.2	597.9	1,138.0	+99.9	9.5%	+17.2	1.5%
営業利益	▲3.4	▲7.4	▲10.8	21.0	21.2	42.2	15.2	33.7	+53.0	-	+8.5	25.2%
製品出荷量	566	654	1,221	674	763	1,436	765	1,439	+216	17.7%	▲3	▲0.2%

- 米国拠点：米国関税の影響により需要は堅調、市況も上昇傾向
日本人技術者の派遣による生産性を改善、値上げによるスプレッド拡大を見込み
下期黒字化の見通し
- カナダ拠点：鉄筋を中心に引き続き需要は堅調
8月に発生した生産トラブルにより一時的に生産・出荷量が減少し、

北米拠点（米国・カナダ） 前回予想比では減益の見通しだが、通期30億円超の高水準の収益を維持

単位	2025年3月期			2026年3月期			前回予想		前期対比		前回予想対比	
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	下期	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	325.0	320.0	645.1	315.5	311.0	626.5	349.7	657.1	▲18.6	▲2.9%	▲30.6	▲4.7%
営業利益	▲12.5	7.0	▲5.5	6.1	18.7	24.8	20.9	27.5	+30.3	-	▲2.7	▲9.8%
製品出荷量	230	233	463	234	215	449	267	501	▲14	▲3.1%	▲53	▲10.5%

参考：当社グループの国内拠点



山口事業所

異形棒鋼（全サイズ）、構造用棒鋼、
小形形鋼（平鋼、Iバー、等辺山形鋼）



枚方事業所

異形棒鋼（細物）、丸鋼



共英産業(株)

鉄筋加工、鋼材販売ほか



共英マテリアル(株)

スクラップ集荷・加工



(株)吉年 鋳物製造



(株)共英メソナ

環境リサイクル事業



関東事業所

異形棒鋼（細物）



名古屋事業所

異形棒鋼（全サイズ）、
ネジ節鉄筋、高張力鋼

その他の国内拠点

- ・ 共英リサイクル(株)
- ・ 共英加工販売(株)
- ・ みどり精密工業(株)
- ・ 中山鋼業（持分法適用）



参考：当社グループの海外拠点（ベトナム）



1 ベトナム・イタリー・スチール社（VIS社）

ベトナム フンエン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：製鋼45万トン/年、
圧延80万トン/年



製鋼工場（ハイフォン）

2 キョウエイ・スチール・ベトナム社（KSVC社）

ベトナム ニンビン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：圧延30万トン/年



3 ビナ・キョウエイ・スチール社（VKS社）

ベトナム ホーチミン市

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、丸鋼、形鋼、線材）

生産能力：製鋼70万トン/年、圧延90万トン/年



4 チー・バイ・インターナショナル・ポート社（TVP社）

ベトナム ホーチミン市

事業内容：港湾事業



5 ビナ・ジャパン・エンジニアリング社（VJE社）

ベトナム ハイフォン市

事業内容：鋳鉄製品製造・販売

生産能力：9,000トン/年





1 アルタ・スチール（AltaSteel）社

カナダ アルバータ州

事業内容：鋼材の製造・販売、
スクラップメタルの処理・販売

生産能力：製鋼30万トン/年
圧延27万トン/年

設立年：2020年（創業は1955年）

アルタ・スチール
（アルバータ州）

1

ビントン・スチール
（テキサス州）

2



2 ビントン・スチール（Vinton）社

米国 テキサス州

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、鉄球）

生産能力：製鋼25万トン/年、
圧延20万トン/年（棒鋼）
鍛造 5万トン/年（鉄球）

設立年：1962年